

第6回墨田区区民行政評価委員会

会議の名称：第6回墨田区区民行政評価委員会

開催日時：平成23年10月17日（月） 午後6時30分～8時30分まで

開催場所：墨田区庁舎13階123会議室

相澤企画・行政改革担当課長：みなさんこんばんは。今回はこれまで4つの分科会、「子育て」、「保健衛生」、「教育」、「福祉」について、皆様から頂いたご意見を基に報告書の素案に対するご意見を頂きたく思います。なお、本日企画経営室長は所用で欠席となっております、予めご了承下さい。それでは岸本会長よりよろしくお願い致します。

岸本会長：みなさんこんばんは。お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。この会も大詰め近づいておりまして、今回が第6回です。早速議題に移りますが、従来通り2時間の予定で20時半に終了予定です。本日は大きく分けて議題が3つあります。1つはお手元の素案についてで、まずそれについて事務局から説明を頂きます。

2つ目の議題はその後、素案に対して委員の皆様よりご意見等を頂くことです。素案の中に委員のご発言を文字に起こしているのですが、その発言が正しく反映されているか、分類がうまく出来ているか、補正等あるかご意見をお願いします。また、ご自分の発言にかかわらず委員会全体についての項目もあるのでそちらもありませんでしたらお願いします。素案についてはそれで議論を終えます。

3番目の議題はこれまでの委員会の運営方法や評価制度などについて感じたことあると思うので、前回配布した「運営方法や資料について気付いたこと」という用紙にご記入頂くと同時に、それを基にご発言頂きたいです。以上について何か疑問などありますでしょうか。

それでは報告書の素案について事務局から簡単に説明をお願いいたします。

事務局：報告書素案について10～15分程度で説明させて頂きます。はじめに、2ページは「報告にあたって」ですが、会長の挨拶が入る形になりますので、岸本会長と相談しながら、これより作成していきます。P3は目次になっています。では目的や昨年度の反省を踏まえての本年度の改善や、委員名などを載せております。さらにこの評価はどのような事業を対象に行ったのかということと、実際の審議の進め方があり、最後に「報告書の取りまとめについて」という構成になっています。は評価結果についてです。皆様が実際にご発言頂いた内容や、事前準備シートを作成した時に記入して頂いた内容などを基に評価結果を作成した、いわば本報告書の中心となる部分です。が「参考」ということで傍聴者の方からのコメント、各委員の感想などを載せます。また、目次にはありませんが、

評価制度全般に関して頂いたご意見を挿入しようと考えています。

そして P4 以降が に該当する部分です。ただいま簡単に申し上げましたが、委員会設置の趣旨、本年度目的、昨年度の反省を踏まえての変更点を紹介しています。例えば、委員の皆様から意見を頂き、この会の名称を変更したこと、そして補助金の評価についての取り扱いに関して、調書の変更をしたこと、 は帳票が職員を中心としたものになっているため、区民の皆様からは見づらいという意見を頂いたので、全面的に見直したこと、特に区の職員の人件費も確認したいとのことで、そちらも今年度から反映しました。 は分科会形式の導入について、2つの分科会に分けることで委員の皆様の発言の機会を多くしました。また、部局ごとに2回の議論を行うことで、議論にも深みが出ました。3.は委員の皆様のご紹介を載せております。

P6の「4.評価の対象」として平成22年度から始まり3年に渡って実施していこうということ。そして今年度については4部局の評価をして頂くこと、区側から、そして委員側から選定した事業を対象にしていることなどが記載してあります。

5.「委員会審議の進め方」については昨年度十分な時間が確保できなかったという反省から分科会形式にしたという経緯の説明、そして1部局について2回の議論をすることが書かれています。

6.は「報告書とりまとめ」で、意見の整理・分類を行ったということについて掲載しています。

7.は開催状況として、これまでの開催日と実際の議題が記録されています。

ここまでが目次における「区民行政評価委員会の設置について」に該当します。

P8からは「評価結果」ということで、ここからが皆様の発言やシートにご記入頂いたことをもとに記載した部分です。最初は「分野を超えた全体に関わる意見」ということです。皆様にはそれぞれ2つの分科会に参加して頂きましたが、実際に携わった分野に共通したご意見、または分野毎に感じた違いなどを掲載しています。次のP9には4名の学識委員による各分野の評価として意見を頂いています。なお、この点については区側で特に記入の方法について明示していなかったため、文体を統一する必要があるかなども含めて各委員の皆様よりご意見頂きたいです。P13からは各分野別の意見ということで、各事業で頂いたご意見が記されています。例えばP14は子育て分野になっています。その事業単体についての議論を始める前に「1.子育て分野全体に対する意見や施策評価について」などを記載しており、2.では実際に評価を行った6つの事務事業が列挙してあります。

これ以降のページについては各事業についての内容を記載する形になります。今日は素案のため、皆様からのご意見のみを載せる形になっていますが、実際に報告書として作成する際は、事務事業評価の結果、それから主管部局で作成した事業概要などを追って挿入する予定です。加えて記載箇所は未定ですが、各分科会に携わって頂いたメンバーの名前を入れさせて頂いてもよろしいか、ご意見ありましたらよろしくお願いします。

P16以降は各事業についてです。ご意見も 1.事業の目的、2.視点別の評価、3.総合評価

と区分けしており、それぞれの分野も同様の形で作成しています。

P45以降は目次のところで説明した・ということで、施策評価の結果や傍聴者の方のアンケート、委員の感想文を記載します。委員の方の感想文については今日机上に用紙を用意させて頂きました。この委員会に実際に参加した感想を200～400字、一言二言でも結構ですので反映させて頂きたいと考えています。

以上が報告書の素案です。まず、岸本会長からもお話がありましたが、P8以降について各委員の発言内容をそのまま箇条書きで記載している部分があります。まずはこのご意見が趣旨に反していないか等の確認のため、現段階では各意見の前に委員の皆様のお名前を記載しています。最終的にお名前は削除します。各委員からの意見で重複しているものなどを集約して最終的な報告書を作成させて頂きたいと考えています。

P9については名前を掲載してよいのか学識委員の方々にご意見を頂きたいです。以上が素案の簡単な内容です。足りないところやニュアンスが異なるところがあればご意見を頂きたいと思います。どうぞよろしくお願います。事務局からは以上です。

岸本会長：ありがとうございます。この素案は2つに分かれています。P7までは委員の成り立ち、進め方、開催実績についての説明です。まず、ここまでの部分にご意見を下さい。

大垣委員：P1、「1委員会設置の趣旨」のところに「区民との協働や行政運営の効果的・効果的な推進を図る」とありますが、その割に本報告書には委員の意見ばかりが集約されている気がします。実際に議論をした各部局の方の意見もないと、我々だけがやっているような印象になりそうです。

また、「4.評価の対象」で、「大きく3つに分けて3年間で行う」とありますが、そのようにした理由が昨年から引き続き分かりにくいです。対象事業の選定理由が不明確な部分があるため、1、2、3年目がそれぞれどんな分野について評価を行うのかなど少し説明を入れたり、去年のように図など入れた方が分かりやすいのではないかなと思います。今のままでは少々わかりにくいのではないのでしょうか。以上2点です。

相澤企画・行政改革担当課長：1点目については区の方の課のコメントということでしょうか。

大垣委員：せめてご担当者から、我々の意見を受け、それを取り入れるのかなどのコメントを頂ければと思います。立場の違いでコメントも変わってくると思いますのでそういうことが分かればいいと思います。

事務局：一応、今回の事務事業評価シートには「外部評価の提言を受けて」という項目があり、主管課の反応もテーマとして考えています。ただ、提言を受けてどう反応するかと

ということになるため、少々タイムラグが生じてしまうかもしれません。したがってこの報告書には記載出来なくても、いずれ必ずレスポンスはどうかという内容は冊子にまとめて皆さんにお返ししたいです。

大垣委員：それならば、この提言を受けて区側はどうするかなどの繋ぎの文章があった方が良いのではないのでしょうか。

事務局：そうですね。そのように繋がる文章があった方が良いと思います。

前田委員：昨年の結果を受けて今年の事業がどうなっているかというのも載せてはいかがでしょうか。

事務局：今回のレスポンスと共に、過去どうなったかについても予算編成過程で数字だけは必ず出ますので、なるべく集約して皆様の手へ渡る形を考えます。

大垣委員：P6の「4. 評価の対象」の項目について。今年は4部局について議論しましたが、3年間を通してどのようなローテーションになっているのかを分かるように書いて頂きたいです。

また、残りの事業は何かなどもお願いします。分野単位で継続していくと思いますが、やっていない分野も対象になる可能性はあるかなと思います。

事務局：ご指摘の通り、もう少し図などを入れて分かりやすく作成します。

相澤企画・行政改革担当課長：ちなみに残っているのは都市計画、まちづくり、建設関係です。

大垣委員：残っている分野も大事ですが、どちらかと言えば観光分野などの税金の使い方について議論したいと思います。

事務局：まちづくりと言っても、ソフトとハードがありますので、ソフトの面という意味では「観光まちづくり」は対象として検討の余地はあるのではないかとはいえますが。

岸本会長：他にいかがでしょうか。

鎌形委員：P5の「分科会形式の導入」について。確かに担当課の方々が1回目の議論を持ち帰って、2回目疑問点などに答えてくれたことも多かったですが、逆に1回で議論が

完結した事業もあったのではないかとということもありました。形式として全ての事業を 2 回議論するのではなく、議長がこれで完結したと思えば、その分を別のところに充てるなどして柔軟にしたら良いのではないのでしょうか。2 回議論することで深まって良かった面と、その逆の面もあったということについて考えても良いのではないかと思います。

事務局：来年に向けてこうやった方がよいというページも作りますので、そちらで措置したいと思います。

岸本会長：P6 の「4. 評価の対象」について。委員会の名称を変えて良かったと思いますが、文章上に「内部評価」という言葉が使われています。せっかく委員会の名称から「外部」という言葉を外したのに文章上にまた「外部」、「内部」というのは如何なものでしょうか。「5. の委員会審議の進め方」も同様だと思います。

事務局：申し訳ありません。まだ素案段階のため、昨年度のものを引用したままの部分があります。全体について「外部」、「内部」という言葉を使わないように工夫してみます。

佐々木委員：昨年来、各分野 600 事業のうち今回検討したのは一部ですが、評価する側もされる側もこれが全部でないことを認識しないといけないと思います。各分野 6 事業取り上げましたが、それぞれの部局が抱えている全ての事業に対しての意見だという位置づけを明確にして頂きたいです。意地悪な言い方になってしまいますが、評価される側は今回の事業だけが指摘されたわけではないことをどこかに言及して頂けると良いのではないかと思います。

私は昨年も関わりましたが、評価しやすいシートとそうでないものというのは各委員の皆さんで認識は共通していると思います。例えば、目的や手段が明記され、進捗がかかれ、筋道立られて書いてあるものは評価しやすい。しかし、残念ながら（記載内容が）昨年に比べて大きく改善したとは私個人は思えませんでした。かといってみんなデタラメだったわけではなく、中には良い内部評価をされている部局や分かりやすい記入をされている担当者の方もいらっしゃったので、例えば「よく出来ましたシート賞」のようなものを作ることで模範にして頂くことを目的に、ベストプラクティスとしてどこかに入れたらよいのではないのでしょうか。2 点目については脱線したかもしれませんがそのような考えです。

岸本会長：シートに関しては、分科会の議論の中で直接言うのが効果的かなという気もしますが。

事務局：議事録でここがいいよという意見があれば他部局の参考にはなるかと思いますが、議事録を見た限り余り誉めて頂いている箇所はないかもしれません。もしあれば線など引いて工夫はしてみたいと思います。

鏡委員：P7までは基本的に委員会がどのように設置されているかなど事務局説明資料だと思います。だとすればP5の「4.分科会形式の導入」とP6「5.委員会審議の進め方」が重複しているのではないのでしょうか。

審議については、各部局から担当者が出てきて実際に議論した時間が何分であるかなどの具体的な話が入っても良いのではないかと思います。

後段の部分は、「分科会導入に伴う影響」ということで紹介しても良いのではないかと思います。

また、全体の流れでこの委員会を以て何を表現したいのかとすれば、出来れば最後の箇所での提言の後でどうするかということについてある程度触れておいた方が良いのかなという気がします。

事務局：PDCA サイクルの中の一部ですので、役所の中で本委員会がどのような位置づけで、提言が今後どう活かされていくのかという説明を盛り込み、決して提言されっぱなしではなく、システム的に対応していることが分かれば良いと思います。

鏡委員：無理のない範囲で結構ですのでそのようにお願いします。

山里委員：P7までのまとめについては私個人とてもよくできていると思っていますし、前回からの改善点にも感心しています。それに比べて今回の委員会が次の委員に渡すべき提言、それをこの提言書のどこにまとめてバトンタッチするのが若干不明です。

また、P6 評価の対象事業の選定にも我々は関わってきましたが、ここにある「区民に身近なサービス事業で、3～5年程度経過」という基準以外に、スクリーニング的な方法で選定したという基準がもしあれば、それも追加して頂きたいと思います。選定に至った経緯を書けば、スタンスもはっきりして評価される側に対するマナーにもなるのではないのでしょうか。もちろん区民の関心が大変強かったためなどの基準でも良いと思います。

また、実績として3～5年程度というのは身近という意味で良いかもしれませんが、逆に30年など長い時間が経過したものについて、なぜそれだけ継続しているかなどに評価の焦点を当てる必要性もあるのではないかなと思うので、もし異存がなければ私は「3～5年以上経過しているもの」として頂きたいところです。

長瀬委員：の部分かもしれませんが、P7までには評価の考え方は書いてありますが、今年何をやったかを具体的に知ろうとした時に、この提言書を初めて見た人は「7.スケジュール」から見るか、「.評価結果」から探さなければならず、パッと見では分かりにくいと思います。それをもう少しパッと見えるように出来れば良いなと思います。

岸本会長: それではP8以降に移ります。特に順序は問いませんのでご意見をお願いします。

事務局: シャベリ言葉を基にしているため文章言葉に置き換える時、付足しや並び替えしたことで、真意から離れている可能性もありますので、そのあたりも含めてご指摘下さい。もし、大量にあるようでしたら後日メールなどで頂いても結構です。ミクロの視点だけでなく、意見の分類の仕方についても意見を頂ければ大変助かります。

鏡副会長: 事前に頂いた資料を読んではいましたが、それぞれが落ち着いてよく見てからメールで送るといった形が良いのではないのでしょうか。

岸本会長: 語れば長くなりそうなものや口では伝わりにくいものについては、鏡副会長からご提案があったようにメールで正確にお送り頂いた方が良いと思います。ここで簡単に言えるようなものがあればご発言をお願いします。

鏡委員: 現段階では名前は入っていますが、最終的には委員の共通意見になるということでもよろしいでしょうか。その中で何か視点が必要なら加えるべきだと思います。

山里委員: 事務局側には大変な作業だったと思いますが、前回報告書には共通の提言と個別意見というのが別にある構成だったと思います。今回は最初からこのようにしたいという事務局の意向があってこの形になっており、そのために事前準備シートも用意して頂きましたが、正直個人的にはそのように使われるとは思っていませんでした。

また、よく見ると、個別には提言になっていないものもあり、この分類の仕方で良いのかということ自体議論しても良いのではないかとも思います。最初からこの形にしようというお話だったので、私自身はこれで行くしかないのかなと思います。ただ、出来たらどこかに個別意見をセンテンスとして提言の形に合わせながら編集したら良いのではないのでしょうか。素案で各意見の繋がりもなく、バラバラとしている印象があります。

事務局: 事務局としては読む人の視点でなるべく同じようなテーマでまとめて質問と回答を一緒にするなどの工夫はしたいと思います。今回はあくまでそれぞれご自身の意見を確認する意味で載せておりますのでそのようにご覧頂ければ幸いです。

岸本会長: 内容についてはメールを受けて追加なり、訂正をするということで事務局側はいかがでしょうか。

事務局：結局のところ色々なセンテンスをまとめた後で、委員共通でトーンがまとまっていたものは上位に、個別のものについては下の方という順序についても考えますので、その中で皆様から頂いた意見は反映します。

岸本会長：先ほど、P9で専門委員の名前をどうしようというのがありましたが、どうしましょうか。

事務局：もし名前を残すならオリジナルを尊重しますが、そうでなければ、集約して1つの流れに沿って編集をすることになると思います。

佐々木委員：私個人は実名を出して頂いても構いません。出そうが出すまいがいい加減なことは言っていないつもりです。

前田委員：名前は出さずに共通意見という形になるだろうという認識で意見は出したつもりでした。名前を出すことで自分の意見と共通の意見できちんと区別が出来るのならそれはそれで良いと思います。

鏡委員：名前を出す意味はよく分かりませんが、名前を出すことで専門的な見地から言っているということを明確にする必要が事務局としてあれば、出して頂いて構いません。名前が出るということを前提で自分の意見を見直しさせて頂くまでです。

事務局：事務局も当初出さない予定でした。特に前田委員のご指摘のように、委員の方々の共通の意見を集約しているので、名前を出すとそれが個人の意見なのか、共通の意見なのかははっきりしなくなるという問題もあり、学識経験者で総括して頂いたということであればあえて名前を出す必要はないと考えていました。

ただ、名前を出すことで各個人がどんな意見の持ち主かわかれば面白いかなとも思いました。どちらでも良いのかなというのが正直なところでございます。

岸本会長：個人的には出さない方が良いのかなと思います。専門委員は名前を出して勝負しろというのなら名前を出す必要はあるとは思いますが、12名の委員の立場が同じならあえて学識経験者だけが出す必要はないと思います。

鎌形委員：学識経験者ではない違う立場から言うと、区民評価委員会と言っても評価まで踏み込める意見はなかなか出なかったというか、評価しにくかったと思います。先ほどポジティブな意見はあまりなかったというお話がありましたが、どうしてもこういうものを見た時、自分が深く関わる事業であれば良い点も浮かびやすいですが、そうでなければ事業に対して問題点などに目が行きがちになってしまう気がします。それは決してマイナスのイメージを持っているわけではなく、ただどのように評価できるのかという事業も多かったように感じたので、全体的に言葉の前に付足してくださったりまとめてくださったりしたことで、自分の中で考えていたことより内容が深くなって「大したものだな」と思って読んでいた部分が結構ありました。やはり全体でまとめて頂いた方が、委員会という形からすると個人名よりも委員会として良いのかなという感じは持ちました。

岸本会長：区民委員も専門委員も同じ立場ですから、名前は出さないということだと思います。

事務局：鎌形委員のご意見を含めると、あくまで手続き上は学識委員の方に総括してもらいましたが、委員会としての総括ならば、あえて「学識委員による総括」書かずに各分野の総括だけでも良いのではないかと思います。

前田委員：P14 に分野別全体の評価があり、学識委員による各分野の総括を入れるとそこと重複するのではないのでしょうか。委員会として出すなら各分野の総括にまとめて書いた方が良いのでは。実際に読んでみると内容もほとんど重複している気がします。

大垣委員：前は、議論の状況など委員会の雰囲気等について第三者的にコメントを頂いたのを後ろに入れて頂くのは良いと思います。中身の意見としては内容に入っていくのかなと思います。敢えて学識委員による総括でなくても良いのではないのでしょうか。

事務局：確かに分野毎の意見・感想ですから、ここに学識委員の意見を合わせて分野毎の総括とする形でよろしいでしょうか。

岸本会長：「学識委員」という言葉が引っかかります。ここには私より学識のある方もいらっしゃるかもしれませんが、学識があるかないかは具合が悪いです。あくまで私自身はこの委員会の立ち上げに携わった「専門委員」という認識でありますので、そちらではどうでしょうか。墨田区では慣例で「学識経験者」という言葉を使用しているのでしょうか。

事務局：確かに当たり前のように使っています。「学識経験者」という言葉で委員会に「箔がつく」という思考があるのではないかと思います。

鎌形委員：委員会によっては「こんな方を学識経験者と言うのかな」と思う場合もありますので、慣例なのではないかと思います。個人的に知っている委員会があると、こっちの方が学識あるのかなと比較してしまう時もありますので、本当に慣例なのだと思います。

岸本会長：議会を説得する時に「学識」という言葉は良いのかもしれませんが。

事務局：委員会の構成としては学識委員の方と区民委員となっていますが、本文中からはなるべく外して、フラットな組織というイメージで書いていくことにします。

岸本会長：内容が変わり得るので指摘しておきますが、P35の「1. 事業の目的、手段、実績（指標）に関する指摘事項」の一番下の「で佐野さんのお言葉は「展示」ではなく、「点字」だと思います。

また、P33で、「1. 事業の目的、手段、実績（指標）に関する指摘事項」の3つ目の「ですが、「朝ごはんを食べましょう」という事業ならば、4行目の表現は例えば「食べないで来る子どもの数が減った」とした方が良いのではないのでしょうか。

ちなみに、昨年と比較して、発言を文字起こしする作業が一段と技術が更に上がったのではないのでしょうか。

山里委員：とは言ってもやはり直して頂きたい箇所は出てくるとは思います。

事務局：中には質問だったものをネガティブな意見として分類して記載したものもありますので、そのあたりに相違がないか確認して頂ければと思います。

長瀬委員：全体の質問になりますが、前回頂いた、気付いたことを書くシートと、今回配布された、感想文を書くシートがどのように反映されるのか確認させて頂きたいです。

P14と重複する部分はないのでしょうか。

事務局：今回目次には入っていませんが、来年度に向けて委員会運営、もしくは区側が作った資料についてもっとこうしたら良いのでは、ということを提言として新たに加えようと考えています。その中に今回の委員会の運営そのものや手段方法について書き、事務事業の内容に関わるものは別にと考えております。感想は委員の皆様の顔が見えるように紹介も兼ねようかと考えています。

長瀬委員：評価のやり方に関する意見は提言書になるのでしょうか。

事務局：この素案では構成が 、 、 となっておりますが、恐らく の前に来年度の委員会運営に向けて、として盛り込んで行こうかなと考えています。感想は本当に最後の方になるというイメージです。

岸本会長：感想が 400 字となるとかなりボリュームがありますが、大丈夫でしょうか。また、昨年は実施していましたでしょうか。

事務局：新しい試みです。せっくなので委員の皆様がどういう感想をお持ちの方なのか分かれば各々の顔も見えて良いと思えました。12 名の委員を 2~3 ページで紹介できればと思っていますので、あまり長くない程度に書いて頂けると助かります。

岸本会長：前回欠席されていた泉委員から何かご発言があればどうぞ。特に発言の内容や P7 までの内容でご自身の認識と違う点があればご意見を出して頂きたいです。

泉委員：前回も欠席、今回も仕事で遅刻してしまいました。報告書そのものについて特に感じたことはありませんが、委員会で事業を評価して、それが来年反映されるのか見えてこないのが不安です。ただ話し合いをただけで終わってしまうのか、それとも来年意見を反映して事業を見直したり、1 つに統合したりするようなものがあるのかどうか。それが説明では見えてきません。気付いた点はそちらのみです。

岸本会長：それではこの素案についてもよろしいでしょうか。2 番目の議題終わりました最後の 3 番目の議題に移ります。前回お渡しした「運営方法や資料について気付いたこと」というシートに記入して持って頂くことになっていましたが、紙で出すよりも他の委員がどのように感じているか分かればより良いと思えますので、是非ご発言を頂きたいと思えます。時間がどの程度かかるか分かりませんが、とりあえず 網掛けの項目が 4 段ありますので、上から順番にお願いします。

前田委員：今回は分科会で同一テーマを 2 回議論しましたが、同一テーマ間は委員会開催の間隔を縮めた方が内容を忘れることがなくて良いのではないかと思います。

大垣委員：去年と比べて最初に全体の説明会があったのは非常に良かったと思います。全体として、委員側が質問することが多かったのですが、逆に区側が委員側に質問なりヒアリングをする機会があっても良かったのではないかと思います。分科会では欠席者がいて人数が減り、意見が出なかったこともあったのでもう少し意見を出せば良かったです。

鎌形委員：先述のとおりですが、同一テーマについて 2 回議論することは良かった点もそうでない点もあったと思います。また初めて参加すると慣れるまですごく難しいと感じました。

しかし、評価シートは去年よりずっと改善していました。回数を重ねるごとに読めるようにはなりましたが、1 回目はどこをどう読み込んで評価に持っていけばいいのか、なかなか分かりませんでした。正直なところ「委員を断れば良かった」と初めの頃は思いました。

泉委員：私個人欠席することもありましたが、2 回で行うためにどんな議論が展開されているか見えない部分はありました。また事務事業評価シートはどこを論点にすれば良いのか見えなかったので意見を出しづらかった部分がありました。

山里委員：分科会方式導入は非常によかったと思います。この方式故、興味のあるテーマが両方あっても両方の議論には参加できなかったのが個人的には残念でしたが、形式としてはこの形は良いのではないかと思います。また委員構成も、年代層や性別バランスが取れていてとてもよく出来ていたと思います。

長瀬委員：同一テーマを 2 日間に分けて議論した方式は良かったのですが、1 日目に何を質問したか情報量があり過ぎて 2 日目に聞き忘れたこともありました。1 日目に出た質問やデータの内容を委員全員が共有できる仕組みがあればなお良いのではないのでしょうか。

鈴木委員：初めてのことで、宿題にしてもどこから手をつけていいのか、どんな視点で見ればいいのか分からず、それこそ「こんな私がやってよいのか」と思うことばかりでした。また、開始時間 18 時半というのは主婦としては厳しかったというのが実感です。

佐野委員：私も自分が参加していない分科会の意見も聞いてみたかったです。自分の担当分野で区側から情報を与えられても何が来るのか、内容的にも勉強不足でわからなかったことがありました。他分野にも興味がありましたので、各分野の内容をもう少し理解したうえで分科会の選択ないし事務事業の選択が出来れば良いのかなと思いました。

佐々木委員：分科会方式は基本的に良かったと思いますが、1 回目と 2 回目の日が空いてしまうと内容を忘れてしまう可能性もあります。代替案として、現在 1 日で各分野 6 事業を扱っているのを 3 事業に減らし、1 日で完結させるようにしたらどうでしょうか。そうすれば前回の議論も忘れることなく中身の議論に入れます。

鏡委員：最初の説明会は実施して良かったと思います。分科会方式はコンパクトにやれて、各委員の率直な意見が出て非常によかったのではないのでしょうか。それから委員会の開催については、出来れば土日も検討し、例えば1事業1~2時間で区側から説明を聞き、その後突っ込むような方式の方が1日で終わって良かったのではないかと思います。

もう1つ、各事業の選定に事務局の意図はあるとは思いますが、委員の視点も様々で、若干ポイントがずれてしまって本丸を攻められないようなことも若干感じました。出来れば論点整理みたいなものがあるとより効率的だったのではないかと思います。

岸本会長：開催日時や時間については皆様どうお考えでしょうか。

鈴木委員：せめて19時にして頂けたら食事の準備もきちんと終わってから来られると思います。

岸本会長：分科会を作ったのは大変良かったと思います。マイナス点もあるかとは思いますが、この方式を微調整してやり抜いてみるのが大切ではないでしょうか。

次に、第2項の「選定対象事業について気付いたこと」は是非ここで言いたいというのがあればお願いします。書類だけで良いという方はそれでも構いません。

鎌形委員：区選定事業について、担当部局と企画・行政改革担当のどちらで選定されたのでしょうか。

事務局：意図としては半々ぐらいでしょうか。もちろん我々でもタイトルだけで中身まで全て把握しているわけではありませんので、大きい部分のリストアップは我々が行いますが、主管部がピックアップしたものをさらに絞り込みするのは区長を始めとして企画経営室長など上の判断も踏まえて選んでいます。したがって一概にどこが決めているとかではなく、少しずつ調整しているというイメージです。

鎌形委員：これだけ時間をかけて選定しても対象が狭くて関心がない人以外には関係ない事業や保健衛生分野でも今年で終了する事業がありましたが、そういうものは議論していても空しさがありますし、実は色々なことを言って欲しくない事業は外れているのかなと感じるところもあったので、先ほど山里委員から基準というお話があったようにその辺りが区民に分かるような仕組みがあれば良いかなと思います。

山里委員：結果として私が担当した事業はよかったと思います。関連する事業も選んで頂いたので少し違う角度から検討することも出来ました。討議する順序も事務局がよく考えてくれたと思います。ただ、事業数が多くて事業名だけではわからないというも確かにあり、もしかしたら当てずっぽうのようなところもあって選定は非常に難しく感じました。

また、ひょっとしたら一番大事なものを抜かしているのではという懸念は常にありました。結局形式としては予算の金額と経過年数、それから ABC の評価がどうなっているかというところに着目せざるを得なかったです。結論としては割と良いテーマだなと思いました。委員長のご苦勞もあったと思います。

長瀬委員：全体のスケジュールありきでジャンルを分けていてやむを得ないところもあるかもしれませんが、「分野毎」という分け方は単位が大きすぎたのかなという印象があります。例えば、高齢者と障害者が一緒だったりすると漏れるところも多くなりましたので、もう少し細かい分け方で深く議論しないと評価の意味がなくなってしまうところもあるのではないかと思います。

岸本会長：ありがとうございます。それでは、3番目の「資料や各種シートについて気付いたこと」についてご意見をお願いします。

鏡副会長：費用対効果を見るときに他の自治体との比較ができる資料があれば良いなと思いました。後は契約についても随意契約なのか競争入札のかなど基本的なところを示されればわかりやすくなるのではないかと感じました。

大垣委員：事務事業シート「5.視点別評価」のところで多くの質問をしたのですが、チェックマークだけでなく、そこになぜチェックをつけたのか理由まで付して頂きたいです。

佐々木委員：評価の根幹に関わると思いますが、コストの捉え方の認識がまだ一致してない向きがありました。記述もしましたが改めて言いますと、例えば教育分野で「郷土文化資料館事業」というのがありました。そこで受益者負担ということで、墨田区の寄席の受講料だけを収入の項目として挙げていて、文化館などの入場料収入が入っていないという状況がありました。恐らくご担当者の方は指摘を受けるまでは誤りという認識がなかったと思いますので、もしこのような状況が他の事務事業にあれば問題ではないかと思えます。

また、大垣委員が指摘していましたが、箱モノ事業は施設の維持管理費用が入っていない場合があります。箱モノでない事業との横並びの比較ができないということであれば入れるべきだと思いますが、いずれにしてもどこまでを事務事業評価シートにコストとして記入しなければいけないのかという認識が浸透していないところがあったので、その点は各主管部局に繰り返し言って頂いた方が良い気がしました。以上です。

長瀬委員：子育て分野で意見を出したとき、その対象者には別の事業でやっていますからという回答があったのですが、その関連事業についてわかっているのは担当者だけという状況でしたので、区側にも関連事業があってその中でもこの事業はこういう位置づけですというような説明があると良いのではないのでしょうか。

鎌形委員：(担当部局から)同分野で、かつ関連事業なのに「自分の担当ではないのでお答え出来ません」という回答がありました。少なくともこのような委員会に出てくる前に自分の同じ部の、もう1つの方もざっと読むくらいしてくるべきなのではないのでしょうか。その程度の準備はして頂きたいと思います。

また、民生委員は役所とも付き合いがあって事情も良くわかりますが、担当が度々交代するので、厳しいだろうなと思って時に追及の手を緩めたりしますが、方式として1つを完結にして、担当者の上司である課長さんも出てきて頂けるとスムーズに終わるのではないかと思います。一般区民の目でみれば「担当課の事業なのに即答できないのかな」と感じるのではないのでしょうか。申し訳ありませんが、もう少し勉強して来て欲しかったと思う面もありました。

岸本会長：関連事業に関して意見がありましたが、評価シートに盛り込むのは難しいと思うので、事業概要を説明した紙に「もし関連事業があれば必ず書いて下さい」としておけば、担当者も認識し、勉強しなければという誘因にもなるかもしれません。

では、4番目の「区が実施する行政評価制度全体について気付いたこと」ということでご意見をお願いします。

山里委員：3番に戻ってしまいますが、評価システムやマニュアルはよく出来ていたと思います。民間の事業会社であれば間接部門の評価は難しいがよく出来ていたと思います。ただ、事業の効率性という点で、経費が増加していてもコストパフォーマンスは向上しているという事業があった。そういう事業についてどう評価したら良いのかというのは区内で認識を共有した方がよいと思います。若干答え方にバラつきがあったと思います。

それから事務事業評価シートに追加して頂きたいのは、今後の取り組み方というのを議論するという意味で今年度の予算が要求ベースでも良いので入っていると議論に役立つのではないかと思います。

岸本会長：それではあらためて4番についてお願いします。

鏡委員：この評価の活用方法について無理がない範囲で記載された方が良いかなと思います。また全体の話ですが、区民委員が大変熱心だったとどこかに記載して頂きたいです。

岸本会長：熱心だったということに加えて、レベルが高くてビックリしたということも私は感じました。

山里委員：率直な感想として、数字に対する sensibility、つまり感応度が少し甘いと感じました。即答してもその次に答えたときにシナリオや論理構成が変わるような場合があります。そういうことは議論を進めていく上で困ることもあるので、もう少し感応度があっても良いかなと思います。ただ、全体的に非常に熱心な姿勢には感心していて、感謝もしています。

また、行政サービスの本質に関わりますが、行政とはあくまでサービス提供者する側です。その一方で受益者の属性をデータとして揃えられれば、それをベースにして話すことができれば説得力が出てくるのではないのでしょうか。さらに、もし今後予算カットなどを行う場合に、より適切な判断ができるのではないのでしょうか。データベースの事業もありましたが、そのあたりに大変期待しています。

余談ですが、3~4 回目にエレベータ乗った時に、傍聴者の方が「委員の人たちは資料をよく読んでいるね」という趣旨のことをお話されていたので、大変うれしかったです。

大垣委員：やはり指標の取り方が問題かと思います。去年はたばこポイ捨ての問題で、ある場所で減ったら全体も減ったという評価をされたことがありました。しかし、今回も定性的なサービスと定量的なものがありましたが、基準が我々自身もよくわからず、区側の皆さんにとっても他の自治体の数字などが無いと指標の妥当性がわからないと感じました。図書館に膨大なお金をかけて公共サービスを充実させるだけでは、限られた予算の中でどう配分していくかということに対する答えは出てきません。ムダを探るだけなら難しく無いとは思いますが、それが行政の仕事なのか我々の仕事なのかはわからない部分がありました。図書館事業で利用者の状況を探る時に貸し出し冊数ではなく、人数のカウントだけでよいのかなど、疑問に感じました。

長瀬委員：重なるところありますが、事業の対象・目的・手段がもっと重要ではないかと私は感じました。読んでいると現状報告が書いてあるだけのこともあったので、そのあたりの意識を高めて頂きたいと思います。

また、具体的な数値をもっともっと入れて頂きたいと思いました。それが指標に繋がってきますので、数字が曖昧だと課がどう評価しているのかも曖昧なままになってしまいます。はっきりしない部分が多かったという気がします。

佐々木委員：長瀬委員に全く同感です。例えば、郷土文化資料館事業の目標は郷土愛を持つこととなっていました。まずこの目標設定が難しく、敢えて書くことは吟味しないと書けない文言であると思います。手段も3つありましたが、3つ目の「学校と連携して授業の一環として民具体験を実施する」という手段に対して事業進捗を捕捉しているかということ、指標には3つの手段のうち1つ分しか捕捉されていません。それにも関わらず視点別の評価がされているのはそもそもおかしい話だと思います。この評価システム自体はすごく良いと思いますが、目標や手段をもっとしっかり考えて頂くことがシートをよりよいものにするに繋がると思います。

前田委員：仕事柄数字についてですが、ふれあい交流事業で、計算間違いがあって人件費が何十倍から何百倍になっていることがありました。担当者のミスであれば良いと思いますが、実際は数字がそのまま流れて評価であまり活用されていないのかなという印象を受けました。桁2つ違っていても見つけられないというのは自分の事業がいくらかという意識がないからだだと思います。したがって、何か項目を追加するというよりも1つ1つの記入項目の意味などを研修や行政改革担当からのフィードバックなりで捕捉して頂きたいと思います。

山里委員：個別で恐縮ですが、私は福祉保健分野を担当しました。これは、受益者は個人でなおかつ社会的な弱者が対象であったし、さらに内容によっては大きな影響を与える可能性があったので、これに対する施策評価を15分程度で結論を出すことは非常に難しかったです。そういうところがあり、委員会には荷が重すぎると感じました。

行政評価の福祉の評価については、無駄かどうかは評価できないというスタンスで話を進めました。ある程度社会の成熟度や民度の高さを示すものであり、事業そのものはある程度は必要だとは思いますが、そのバランスは行政の方で考える問題であろうと思いました。このような考えについてコメントして出したいなと思っていましたが、場所がなかったためこちらで申し上げました。

鏡委員：区民は区民の感覚でおっしゃって頂く区民としての責任があると思います。本委員会の決定が全てではないと思いますし、まずは区民としてどう考えるのが大事で、そこから逃げてしまうのはこの委員会の本質ではないと私は思います。

山里委員：そういう意味では区民感覚としては「やや大きいと思う」と書きました。ただ、本当に実態を知らないところもあるので、個人としてはコメントできないなという感覚を持ちました。

岸本会長：委員会位置づけについて私から感想というか最後をお願いという形で申し上げます。この委員会は仕分けではありません。墨田区内部の評価の仕方について区民視点で評価をして区に伝えるものです。昨年はまだ「仕分け」という認識が残っていましたが、今回はそういうものがほとんど無くなって、区民委員の皆様が自制をされたのかなと非常に有り難く思っています。

本委員会の成果をどう生かすのかという疑問が挙がりありましたが、例えば本委員会の結果で新事業ということはなく、もちろんそのようなことはこのような少人数の区民評価委員会で決めることではなく、区議会や区長で決めるべきものであります。区でやっている事業評価に関して、私たちはそれを見て様々な指摘をすることの方がこの委員会成果が生かせるのではないのでしょうか。議会で政策を採用してほしいというのは大変難しいことですが、これまで実際に区の担当者の方がこの委員会に来て頂いて今日まで出た改善点が報告書にも必ず盛り込まれます。それは議会で条例を通すことではありませんが、もっと身近なところで区の職員の皆様に活用して頂けるはずです。スケールは大きくありませんが、もっと確実に委員会の成果が活かされていくだろうし、この委員会素晴らしいという感想を持っています。

これで本日の素案に関する議論を終了します。本日発言できなかったものについては、宿題を通じて、事務局で報告書の最終案の作業をして頂きます。最終案にする作業については再度集まるのは大変ですから、副会長と私に一任して頂き、最終案の前に見て頂くこととなりますが、それでよろしいでしょうか。

(一同首肯)

鏡委員：それぞれがメールで訂正したところを送ると、どこがそれぞれの訂正箇所かわからないので、見え消しでやったり、文書を郵送で送ったりした方がよろしいのではないのでしょうか。封筒など用意して頂ければそれに切手を貼って送って終わりに出来れば簡単だと思います。それからいつ頃までに出せば良いのでしょうか。

事務局：では、もし郵送が良いという方がいらっしゃいましたら郵送でお送りします。期限については概ね今週末か来週までに頂けると作業がスムーズに進みます。

岸本会長：それでは今後のスケジュール等について事務局からお願いします。

事務局：次回は11月7日（月）開始時間は18時からとなります。最終案をご覧頂き、19時ごろに区長に対して提言をすることになります。当初、18時半と申し上げておりましたので、ご都合もあるとは思いますが、ご自身の間に合う時間にご来庁頂ければと思います。

「次回までに」という資料についてですが、素案について気付いた点と訂正箇所があれば、今週末10月21日を目途にお願いできればと考えております。それをもとに修正していく流れになります。今後については会長と副会長と調整をし、皆様に案をお送りする形になります。11月7日には、お気づきの点をご意見頂きたいと思います。

素案のP8に全体に関わる意見があります。ここについてはどのような意見を下さいということとは特段お願いをしていませんでしたが、何かございましたらご意見を下さい。また、「委員会の運営方法について」というシートも一度ご提出をお願いしたいと思います。

また、繰り返しになりますが、最後の宿題として感想文をお願いします。フォーマットはありますが、メール送付でも結構です。

岸本会長：ご意見がないようなら、これで第6回区民行政評価委員会を終了します。長い間ありがとうございました。